

「自律的な学習者を育てる学校教育の役割」

2024年10月20日（日）に立命館大学実践教育学会第8回研究大会が開催されました。昨年に続き、今大会も対面とzoom配信のハイブリッドで開催し、多くの方にご参加いただきました。遠方の皆さんにも多数参加いただき、感謝申し上げます。この実践教育学会は教員と院生が協力して行っており、今大会も特に学生が中心となって企画・運営をし、zoom配信も院生が担当しました。

第1部 「実践報告会」 日高 竜也 福岡県立八幡高等学校 地理歴史・公民科教諭

第1部は「実践報告会」として、本研究科修了生である日高竜矢先生が、「『せんせい』という仕事－教職大学院での学びと現場での実践を振り返って－」の報告をされました。授業実践では、特に「総合的な探究の時間」において地域の人々や関連機関と連携しながら、地域の特色を活かした取り組みについてお話しいただきました。

また、分掌の仕事についてもお話があり、子どもたちに直接関わる『せんせい』の仕事だけでなく、子どもたちからは見えにくい多様な業務をこなす『せんせい』の仕事を経験する中で、大学院での学びがどのように活かされているのかについてお話しいただきました。



第2部 「研究大会講演会」 森 朋子 桐蔭横浜大学 学長

第2部の「講演会」では、森朋子氏（桐蔭横浜大学学長）に「自律的な学習者を育てよう 学校の役割を考える」というテーマでご講演いただきました。2つのジリツ（「自立：independence」と「自律：autonomy」）を軸に、生涯にわたって自律的に学び続ける力を学校教育で子どもたちにどのように育成していくのかについてお話がありました。

教科教育と「総合的な探究の時間」の中で、willの育成（「自立」）と学ぶ方法・手段の訓練（「自律」）をバランスよく育成していくこと、そのためには学校全体で計画的なカリキュラムデザインを行う必要性など、とても示唆に富む充実したご講演でした。

シンポジスト 犬飼 龍馬（立命館守山中学校・高等学校 国語科教諭）
砂川 真璃（立命館宇治中学校・高等学校 社会科・地理歴史・公民科教諭）

第3部

第3部は「シンポジウム」として、「自律的な学習者を育てる学校教育の役割」というテーマのもと、コメンテーター森朋子氏、シンポジスト犬飼龍馬氏（立命館守山中学校・高等学校国語科教諭）、砂川真璃氏（立命館宇治中学校・高等学校社会科・地理歴史・公民科教諭）をお迎えし、神藤貴昭教授（立命館大学大学院教職研究科）がコーディネーターとして議論が交わされました。

議論は第2部の講演の中心的内容である「2つのジリツ」を議論の柱とし、教科を超えて学校全体での取り組みに広げていく方策や、教師自身が自律的・自律的な学習者になることなどについて議論がなされました。



第1～3部を通して会場参加者から多くの意見や質問があり、実り多い実践教育学会になりました。皆様のご意見を受け、来年度も興味深いテーマを企画し、多くの皆様の参加を期待しております。